

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／有本ビデオ

世の中の変化に絶えず敏感に 海外の有力大学と連携し グローバルな展開を推進します

グローバル化や産業の空洞化など、刻一刻と変化していく世界情勢に通じることは、進路指導において実はとても重要なことです。どのような人材を育てるかというとき、日本の行く末を考えることは避けられませんが、時代の変化に対応なくして社会に役立つこともできません。特に理系の大学ではその点がまっさきに問われるはずで、時代の最前線を見据えながら、それまで誰も発想しなかったことを考え形にする。資源の乏しい日本が国際競争力を維持するためには、先端技術分野におけるこうしたイノベーションが不可欠です。

そうした観点から、本学はドイツ・ミュンヘン工科大学やアメリカ・ライス大

学をはじめ海外の有力大学と連携を深めています。学生たちに国際舞台を経験させることはもちろん、世界から見た日本の状況を理解させることも重要です。ナノ材料マイクロデバイス研究センターが、米・独・ポーランドの提携校の協力のもと開催した国際シンポジウムや、建築・空間デザイン学科の海外研修をはじめ、多くの学生たちが今夏も海外の研究者たちと交流しました。世界レベルを目的の当たりとした学生たちは、一回りもふた回りもたくましくなり、周囲の学生たちに良い刺激を与えてくれています。真のグローバル人材育成のためには、学生たちにそのようなチャンスを多く与えること。これも最前線の教育・研究と並び大学の重

要な役割だと考えています。そのために必要な生きた英語を習得させるため、神田外語大学と協定を結び、ネイティブ教員による実践講座も展開しています。

私たちが目指すのは「理論に裏付けられた実践的技術を持ち、現場で活躍できる専門職業人の育成」です。最先端の研究は、実践を通して応用に結び付け、時代の変化に対応し、生きた教育として学生たちに還元してこそ意味を成すものです。レスキューロボットコンテストでのレスキュー工学大賞受賞、NHK大学ロボコンやロボカップ世界大会で入賞を果たした「ロボットプロジェクト」、秋田県の大大会で部門1位に輝いた「ソーラーカープロジェクト」など、本学のものづくり実践教育を通して育まれた学生たちの専門性と実践力が、着実に成果として現れています。

どんなに成績優秀でも、指示待ち人間ではイノベーションに関わる研究などできません。私たちが求めているのは、漠然とでもいいから夢や目標、技術者を目指す気概を持った若者です。そのような若者たちを、総合大学ではできない丁寧な教育で、真の理工系グローバル人材に育て上げることをお約束します。

大阪工業大学 学長 井上正宗



【学長プロフィール】いのうえ まさたか●1945年生まれ。大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程修了。大阪大学助手、助教授などを経て86年大阪工業大学教授。工学部長などを経て2007年から現職。専門は半導体工学。大学基準協会評議員、関西社会人大学院連合理事、大学コンソーシアム大阪副理事長など役職多数。

【大学プロフィール】1949年開学。知的財産学部(知的財産学科)、情報科学部(コンピュータ科学科、情報ネットワーク学科、情報システム学科、情報メディア学科)、工学部(建築学科、空間デザイン学科、都市デザイン工学科、電子情報通信工学科、電気電子システム工学科、ロボット工学科、機械工学科、環境工学科、生命工学科、応用化学科)。